

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成28年10月31日
タイトル	みんなで給食米を刈ったよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成28年10月17日（月）福山市立東村小学校全児童44名と福山市立東村保育所児童14名が、学校給食食材納入グループ「若草会」の学校農園約20aのほ場で、給食で食べるお米の稲刈りをしました。

一晩中雨が降り稲刈りができるか心配しましたが、雨があがったので稲刈りをすることとなりました。子ども達は小学校と保育所から元気に歩いて来ると雨雲を吹き飛ばすように地域の方と一緒に広島東洋カープの応援歌を「勝ち勝ちの勝—ち、勝ち」のところを「晴れ晴れの晴—れ、晴れ」と替えて歌いました。



学校農園の畑から歩いて来る子ども達が見えます！

手で植えたところにくっきりと境が！

まず、学校給食食材納入グループ「若草会」代表の杉原直道さんより「今年は6月の豪雨、8月までの猛暑、9月の長雨と稲も作る人もクタクタになりましたが何とか元気に育って黄金色になりました。」と挨拶されました。

つぎに、福山市教育委員会三好教育長が「自分達で田植えや稲刈りをした米を給食で食べることができるのは非常に素晴らしいことであり、若草会や地域の皆さんのおかげです。今年是一緒に稲刈りをするつもりで来ました。一緒に稲刈りをしましょう。」とおっしゃいました。

子ども達を代表して「田植えの後、大雨や台風で稲のことが心配だったけど、こんなに立派に稲を育ててくださり若草会の皆さんありがとうございました。」と感謝の気持ちと新米を食べるのが待ち遠しいと挨拶しました。

そして、杉原さんよりカマの使い方などを教えていただきました。杉原さんがこの5年間子ども達が一度もケガをすることがなかったのは、稲刈りを真剣にしているからとおっしゃったのが印象的でした。



いよいよ稲刈りです。子どもが使いやすい小ぶりのカマを持って、4、5、6年生が一列に並んで田んぼへ入ります。昨夜からの雨で田んぼは水が溜まりぬかるんでいましたが、子ども達は慎重に歩いて稲を刈り始めました。

5、6年生は慣れた手つきで、ザクザクと小気味よく刈っていきます。4年生も最初はぎこちない手つきでしたが、すぐに上手になっていきました。子ども達が真剣に稲刈りをしていて、ふざけたりケンカしたりしないのでケガもしないし上達するのもすごく早いのだと思いました。

田植えの時に子ども達が手で植えたところは、機械で植えたところよりなぜか元気で境界線ができていました。手で植えたところを稲刈りしようという事になり、地域の方や若草会の方が声をかけながら、ほ場の4分の1を手で刈りました。

途中から保育所の年長組もカマを持って稲刈りに参加しました。先生方に教えてもらい上手に稲刈りをしていました。年中組は「来年は稲刈りをするぞ」と思いながら稲刈りの応援をしていました。

今年で4回目の稲刈りの取材ですが、年々子ども達が上達しているようで、今年は稲刈りのスピードがとても早く感じ、どんどん刈っていくので束にくくるのが間に合わないようでした。



三好教育長や校長先生も一緒になって稲刈りをされ、慣れた手つきでザクザクと素早く沢山の稲を刈っておられました。地面がぬかるんで刈った稲を直接置くことができないので、1、2、3年生が田んぼに入りみんなが刈った稲を受け取り畦まで運びました。畦では若草会の方が束にしています。

刈った稲は、束にしてはざ掛けにしていきます。はざ掛けにする足は竹を3本縄で縛ったもので、この3本足を稲の株の上に置き沈まないようにすると倒れにくいそうです。最近の稲刈りは、はざ掛けにすることが少なくこうしたコツも段々と分からなくなっていくと話しておられました。

はざ掛けは、全員で協力してしました。今年はぬかるみで転げる子が続出し歩かない方がいいと稲の束をバケツリレーのように運んではず掛けにしました。

はざ掛けを全て終え、東村小学校の大村校長先生より「田植えや稲刈りの貴重な体験をさせていただいている若草会や地域の方へ感謝すること、毎日の給食でお米を食べる時、この収穫の喜びと感謝の気持ちを思い出し大切に食べること」をお話されました。

また朝、子ども達は雨のため稲刈りが延期になるかと不安だったらしく「稲刈りをします。」と先生がおっしゃると「やったー。」とガッツポーズをして喜んだことを教えてくださいました。



それから子ども達へは給食のかわりに大きなおむすびが、地域の方々には若草会から新米を使ったおむすび弁当が配られ、子どもも大人も一緒になり稲刈りをした田んぼを見ながら大きなおむすびをほおばりました。新米のおむすびはとってもおいしかったです。

おむすび弁当には、子ども達から手書きのメッセージが添えられてあり、おむすびを食べながら、こんなことが書いてあるよと話が弾みました。若草会や地域の方がとても嬉しそうにメッセージを読んでおられました。

おむすびを食べ終えた子ども達から、自然と歌声や田んぼや用水路で遊ぶ笑い声が聞こえ、「子どもの声はええなあ。」と大人も笑顔になり疲れがどこかにいったようでした。



#### — 子ども達からのメッセージ —

こんなにおいしいお米を毎日給食で食べられるのは東村小学校だけです。きっと私が病気をほとんどせず元気に大きくなっていったのは、このお米のおかげです。 4年生

「最高で一す！」と思わずさけびたくなるおむすびのおいしさ。みなさんありがとうございます。水の管理や草取りがたいへんだったでしょう。 5年生

東村だけの新米をたべると力がわいてきます。私は勉強やスポーツをもっともっと頑張ります。まだまだ上の学年になっても東村の米を食べられることをほこりに思います。お米と農家さんとかかしさん、見ててください！ 4年生

6月に田植えを行って、今日までに葉がすごくのびていて、お米もいい色になりました。今日の日までに水の管理や草取りやお米にいっぱいえいようと愛じょうをこめて作ってくださったお米は、いつもより何倍もおいしいです。 4年生

かかしが2体だったけど、ふえてびっくりしました。いねがちっちゃかったけど、ぐんぐんのびました。かかしのおかげでおこめがぶじでうれしそうでした。ありがとうございます。 1年生

見に行くたびにおこめが大きくなっていたので、びっくりしました。いつもごはんがたべられてうれしいです。 1年生



メッセージは一枚ずつすべて手書きで、何十枚もありました。どのメッセージからも子ども達の感謝の気持ちや喜びが伝わり、とても温かい気持ちになりました。

子ども達が地域全体に見守られていて、心豊かに成長していることを実感しました。

東村小学校では、収穫した米を使って子ども達が調理実習をし、若草会や地域の方を招いて「感謝祭」をするそうです。ぜひ取材したいと思います。